

エディトリアル

横須賀市立うわまち病院 小児医療センター長 宮本朋幸

待望の(?)「総合医のための小児科講座2」を企画いたしました。今回は、前回の特集よりさらに奥深い問題を取り上げました。取り上げたテーマの一つ一つは、小児科専門医でも不得意とする分野ですが、患者数も多く、重要な分野です。それに、総合医だからこそ知っておかなければならないテーマ、今後総合医の活躍が期待されるテーマが取り上げられています。

前回取り上げることができなかった急性症状として、けいれんをまず入れました。小児の診療では、けいれんという症状はよく目にするもので、その対処法と、診断は大切です。現在、日本小児神経学会、日本てんかん学会で熱性けいれんのガイドラインが議論され、今年中には発表される予定ですが、本誌の発行には、間に合いませんでした。発表された時には、また、テーマとして取り上げてみたいと思っています。

次に心雑音です。これも、小児科医が不得意とする項目の一つです。今回はいわゆる「無害性心雑音」の見分け方を主に書いていただきました。本文にも書いてあるように、非常に頻度の高い症状です。病的な心雑音とそうでないものとをしっかりと鑑別するコツを身に付けていただければ幸いです。

国立成育医療センターの永井 章先生には不登校について書いていただきました。小・中学生を合わせると12万人いると言われている不登校の子どもたち。さまざまな症状を訴えるこの疾患は、プライマリ・ケアの中で遭遇することも多く、診断と管理に総合的な力を必要とします。小児科医のみならず、総合医の本領を発揮できる疾患の一つだと思っています。

横須賀の療育相談センターの所長で、数多くの発達障害の子どもたちを診ていらっしゃる広瀬宏之先生に、教育の現場でも問題となっている学習障害について書いていただきました。今後、学習障害は医療の世界では限局性学習症と呼ばれることが多くなるであろうと広瀬先生は書かれています。ともすると、よく理解されず、適切な教育を受けることができない子どもたちがいるということも書かれています。「その子の能力に応じた教育を受ける権利が等しくある」との文言が憲法にあるという、先生の言葉は、先生の子どもたちに対する熱意が感じられ、心に響きます。そのために、この疾患群を理解し、診断しなければならないのです。そして、専門医への橋渡しをするのが、総合医の役割です。

